



NEAR産業部品・材料展とその意義

ジェットロ富山 所長 温井 邦彦

「NEAR2008 in とやま」の開催が近づいてきた。産業部品・材料展は2002年に富山県とジェットロが中心となって中国の部品材料展を始めたのが最初で、以降隔年で開催してきた。今年が5回目となる。2006年からは中国以外に韓国、モンゴル、ロシアの企業も参加している。2002年は富山県企業も例に漏れずなだれを打つように、本格的に中国への進出を始めたところで、産業の空洞化への懸念が叫ばれていた。それを緩和するにはどうすればいいのか。中小企業の安価な部品調達を促進し、コストダウンの要請に応えられるようにするには、と考えるのはじめたのがNEAR中国部品材料展であった。NEARの名前のおり北東アジアへの環日本海のゲートウェーを目指すという施策もあった。2002年のころは部品のみに着目し、かつ地方都市でサンプルを中国から持ってきてじかに触れることのできる展示会は珍しく、大いに注目された。

当時、中国のすその産業はこれからという時代でいい部品材料を探すのは一苦勞であり、すでに中国に進出している企業も含めて、質のいい安価な部品を製造する中国企業を発掘するのが至上命題であった。まさに中国からの部品調達を考えている企業にとっては目からうろこの展示会で、入場料をとっても来る人は来る、と中国専門家に言われた。展示部品が思ったよりいいのでびっくり、やっぱりまだまだとがっかりくる人、来場者の反応はさまざまであった。この展示会のカタログ、富山だけで終わりにするのはもったいない、他の都市へも巡回すればと言う人もいた。それほど画期的な展示会であったと思う。2002年はまさに中国部品元年、来場者の真剣なまなざしが思い浮かぶ。

さて、それから6年。2002年は82社・機関集めるのが精一杯、その間に対象地域を東北地方と華北だけでなく、華東それに華南を加えた地域まで拡大したことも幸いし、今年是中国だけで楽に160に迫る企業・機関が集まった。関係する方々

に感謝しないといけない。予想をはるかに超える出展申込を獲得できた。出展勧誘に協力してくれた中国各地の中国国際貿易促進委員会との信頼関係が4回の開催で築かれたこと、中国でNEAR展示会の知名度が上がったこと、中国企業の力がついてきたことなどがこの数字となって表れているのだろう。出展企業は華東地域が最も多く、勢いは北から南へ、業種は金型、鑄造、自動車部品などが多く、高度化が明らかにみられる。発展著しい江蘇省、浙江省の企業がたくさん出展してくれるのも心強い。ただし、富山県あるいは日本の部品メーカーへの部品供給と言うスタンスは変えていない。ポンプを製造する日本メーカーへの、ポンプでなくポンプ内部の部品供給、いわば部品の部品を供給してもらい、互いに共存しあえる関係であることが大切である。

中国経済は急発展を遂げ、2007年のGDPは2002年の倍になった。数えてみれば100社近い企業が、この富山から中国に進出している。2002年ごろから日本の貿易統計の傾向と軌を同じくして、伏木税関の富山県の貿易額も急拡大している。特に現地法人への原材料等の供給とみられる輸出が好調である。現在、日本と東アジアは水平分業が進展し、原材料、汎用部品等の中間財の相互供給が進んでいる。富山県の企業もこの大きな波のなかにある。今年の展示会には韓国からも18社・機関が参加する。富山県あるいは日本の部品メーカーが売り込む絶好の機会でもある。彼らも日本の部品を必要としていて、実際、各社のブースを丁寧に回って成約した企業もあるし、会場で中国企業から日本の部品を輸入したいと相談を数多く受ける。大体高機能な部品や素材であることが多い。今後、中国および韓国企業への売り込み、輸出機会の提供という機能は重要になってこよう。

この展示会が、来場する日本の企業と出展する東アジアの企業双方にとってますます実り多いものになっていくことを願う。